

1-3. 受託調査研究

④5) 東京都心部における民間開発と連携した効果的な緑の配置・ネットワークに関する調査

委託者：国土交通省都市局公園緑地・景観課

1. 目的

■背景・目的

東京都心部の民間活力による質の高い開発を促進する地域では、各プロジェクトの公開空地等で自主的に緑地が創出され、良好な景観形成や生物多様性に配慮した都市環境の保全に貢献する事例が増加している。一方、創出される緑地は、開発時期が異なる等の理由により、他事業により創出される緑地との連携や周辺の既存の緑地との調和が十分に図られない場合が多く、生態系ネットワークの構築が十分にできていない状況にある。そのため、生物多様性等に配慮した都市環境を形成するため、個々の緑地が生態系ネットワークの構成要素として十分に機能するよう、統一的に創出・管理できる仕組みづくりが課題となっている。そこで、千代田区において、民間開発の先駆的取組みとして、緑のネットワーク機能の確立に向けた関係主体が、協働で実施する仕組みづくりについて調査・分析するとともに、官民及び事業者連携による、広域的な緑地の機能発揮に向けた、エリアを超えた連携手法、及びネットワーク化の活動を誘発する方策について検討することを目的とした。

2. 業務の概要

①エリアとしての緑地価値モニタリングとそのデータ集積活動の検討および試行、さらにデータ共有システム構築の検討

千代田区の大手町・丸の内・有楽町地区（大丸有エリア）をモデルに、複数の民間緑地が共通理解のもとに緑地価値モニタリングとそのデータ集積のための活動を進めるための調査と検討を行い、その試行を目指す。緑地機能のモニタリングの実施にあたっては、モデル地区で皇居の緑地に隣接地に創出される緑地を対象に、生物の生息状況等の環境改善効果の測定を行う。モニタリングの試行により集積するデータを効率的に共有するためのシステムの構築を検討し、それに必要な仕組みを明らかにした。

②広域的なデータ集積方法の検討、及びエリアの特徴を活かした官民連携、事業連携による効果的な緑の配置や緑のネットワーク構築の方法の検討

取組①で検討した仕組みを利用して、モデルエリア以外への展開可能性と、将来的な広域データの共有のための方策を検討するため、隣接する行政区や都市開発の主要事業者に対し、データの集積・管理・活用の方法、課題等について会議を実施するとともに、それぞれのエリアの特徴を生かした官民連携、事業連携による効果的な緑の配置とネットワーク構築の方法を検討した。

③民家緑地の価値創造と発信を継続的に誘導する方策(インセンティブ等)の検討

取組み①の試行結果や、取組み②の検討をもとに、都心部における民間緑地が継続的にその価値を発揮し、かつその情報を集積・評価・活用するための誘導方法、支援方策を検討する。上記①から③の取組みにおいては、有識者、行政、民間事業者等による円卓会議を設置し検討を行った。